

1 2030年における地域のめざす姿

○たくましい農林水産業

農林水産業を支える基盤となるきれいな農地、水、環境が守られ、安全・安心、高品質な農林水産物が地域ブランドとして広く流通し、既存販路の拡大や新規エリアの開拓が進んでいます。

地域が一体となった取組により経営感覚に優れた生産者等の育成が進むとともに、生産された農林水産物が地元事業者により付加価値を高めて流通・販売されるなど、地域の6次産業化が進展しています。

農林水産業に夢を持つ若者の増加や地域経営体の育成・大規模化により、働く場所の確保が進み、多様な取組が展開されるとともに、作業のICT化等により労働力不足への対応が進んでいます。

○「シンカ」^{*}し続ける観光産業

地域の人たちが一体となって、発掘した観光資源に誇りを持ち、風土に根ざしたストーリー性のある観光コンテンツづくりに継続して取り組み、地域の魅力を世界に向けて発信し続けることによって、国内外からの共感を得て多くの観光客が訪れ、観光産業が成熟した産業として確立しています。

滞在型観光や冬季観光の取組にも力を注ぎ、ここにしかない自然や歴史、食、生活、産業、それらが織り成す景観に癒しを求め、何度でも訪れる観光客が増加するとともに、四季を通じて遊び、楽しめる地域として滞在時間が伸びています。

まちづくり・人づくりにより受入態勢が充実し、「住むならここ!!」と地域の人々が誇りに思い、「何度でも訪れたい」、「住んでみたい」地域として選ばれています。

*「シンカ」とは、「進化」、「深化」、「真価」などと表現することが可能であり、地域住民が一体となって継続的に地域資源の活用（発掘・磨き上げ・商品造成）と情報発信に取り組むことで、観光の品質も昇華していき、地域における主要産業として確立されているという思いを込めています。

○地域ぐるみで健康づくり

健康的な生活習慣づくりや疾病予防に対する意識が地域住民の日常生活に浸透しており、全国の平均寿命との格差が縮小し、健康寿命が延伸しています。

地域ぐるみでこころと体に関する健康づくりが進んでおり、生活習慣が改善

し、自殺者が減少しています。

住民の理解と協働の下、医療機関の役割分担がなされ、救急医療や在宅医療など地域の医療提供体制が充実し、住み慣れた地域で暮らし続けています。

○暮らしやすい社会

地域で頑張る若者の取組を評価し、応援することで、次世代の目標となる人財が育成されるとともに、地域に根ざした農林水産業や観光産業が魅力を増し、地元への人財定着が増えています。

また、これまで支えてきた人との世代間交流が活発に行われ、世代交代も円滑に進むとともに、地域で安心して次世代の子どもたちを産み育てることができ環境が整っています。

地域の支え合いや行政・民間との連携の下、地域で生まれた誰もが、地域で育ち、地域を助け、地域で安心して老後を迎えることができます。

人口減少によって生じた空き家の活用等が進み、住環境が良好に保たれています。

ごみの減量と分別がしっかりと行われ、リサイクルの取組により限りある資源が有効に活用されています。

2 地域の概要、特性と課題 ～めざす姿の背景～

(1) 地域の概要

○厳しくも豊かな自然環境

西北地域の地勢は、西部は日本海に面し、東部及び北部は中山山脈が連なり、南部には世界自然遺産白神山地が控えています。

気候は、夏季は内陸型の気候で高温多湿ですが、北部では偏東風（ヤマセ）が発生することもあります。冬季は豪雪で日本海からの強い偏西風の影響を受け、地域によっては雪が舞い上がって吹き荒れる「地吹雪」が発生します。

白神山地に源流を持ち、西北地域を縦断して日本海に注ぐ岩木川沿いには津軽平野が広がり、稲作を中心とした穀倉地帯を形成しているほか、果樹、野菜の生産も盛んです。

○地域の交通網

交通網の状況を見ると、道路は、国道 101 号と国道 339 号、つがる柏 I C まで供用されている津軽自動車道が幹線を形成しています。また、鉄道は、JR 五能線と津軽鉄道が生活路線としてのみならず、海岸沿いの絶景を楽しむ「リゾートしらかみ」や冬の風物詩「ストーブ列車」など全国的にも人気の高い観光路線としても重要な役割を果たしています。

○広大な農地と豊かな海が育む農林水産業

水稻を基幹として、大豆や小麦の畑作物、りんご、ぶどうなどの果樹、メロン、すいか、ながいも、ねぎ、トマト、ブロッコリーなどの野菜が生産され、畜産は、肉牛が地域ごとにまとまりを持って経営され、養豚及び酪農には特徴的な経営を行う事業者もいます。水産業では、マグロやイカ、ブリ、メバル、ヒラメ、十三湖のシジミなどの地域資源が豊富なほか、サーモン養殖の取組も期待されています。

これらを生かし、管内各市町で地域ブランド化への取組が本格化しているほか、水田農業を主体とした大規模経営体や加工・販売活動に意欲的な女性が起業するなど、雇用の場が増加しています。

○悠久の時と独特な文化を生かした西北の観光

西北地域には、世界自然遺産白神山地や青池、権現崎などの自然、世界文化遺産登録をめざす「北海道・北東北と縄文遺跡群」を構成する亀ヶ岡石器時代遺跡などの縄文遺跡や中世の面影が残る十三湊遺跡、2017（平成 29）年に日本遺産に認定された「北前船」の活気を伝える白八幡宮や円覚寺などの歴史文化、その巨大さで見ざる者を圧倒する五所川原立佞武多を始めとする地域の祭り、津軽三味線などの伝統芸能、2019 年に生誕 110 年を迎える太宰治の生家斜陽館、りんごをまるごと楽しめる板柳町ふるさとセンターのほか、近年外国人旅行者にも人気が高い日本最長の木造三連太鼓橋「鶴の舞橋」や朱塗りの千本鳥居が象徴的な高山稲荷神社など多彩な観光資源があります。

また、マグロ、メバル、ヒラメなど地域の食材を生かしたご当地グルメの開発や健康志向に着目したコンテンツ開発で滞在型観光の促進に向けた動きも活発化しています。

○いのちを守る

平均寿命は着実に延びてきていますが、全ての市町が全国平均を下回っている状況にあります。40 歳代から 60 歳代までの男性、50 歳代から 60 歳代の女性の死亡率が高く、生活習慣に起因する悪性新生物・心疾患・脳血管疾患の死亡率が高いことが特徴です。

また、自治体病院機能再編により、2014（平成 26）年 4 月に「つがる総合病院」が開設し、地域の中核病院としての役割を担い、切れ目ない医療を提供するため地域連携の強化に努めています。

○暮らしを守る

西北地域は、県内でも有効求人倍率が低く、働く場の少なさやミスマッチなど

の理由から、若者たちが流出しています。一方、老年人口（65歳以上）は2020年にピークを迎えますが、県全体では、65歳以上の高齢単身世帯が増加していく見通しであり、西北地域でも高齢単身世帯の増加が予想されます。

これらの状況を踏まえ、地域で生まれ、地域で育ち、地域を助け、地域で安心して老後を迎えることができる社会の実現に向けた取組が始まっています。

（２）地域の特性と課題

○構成市町村ごとの人口と世帯数

西北地域の人口は、14万5,566人で、県全体の11.1%を占めています。人口（2010年：15万9,044人）、世帯数（2010年：5万3,919世帯）とも減少しています。（表1）

表1 構成市町の人口・世帯数

	五所川原市	つがる市	鱒ヶ沢町	深浦町	板柳町	鶴田町	中泊町	合計
人口(人)	55,181	33,316	10,126	8,429	13,935	13,392	11,187	145,566
世帯数	21,143	10,981	3,851	3,304	4,680	4,384	4,118	52,461

資料：総務省「平成27年国勢調査」

○将来推計人口

西北地域の将来人口は、2030年には現在の72.8%（10万6,024人）まで減少するものと推計されています。

また、老年人口の割合が45.8%（4万8,553人）まで上昇し、2人に1人は高齢者という見通しで、一方、年少人口（0歳～14歳）は7.8%（8,268人）まで減少する見通しです。

2030年の将来人口を構成市町別に見ると、深浦町は現在の62.6%、中泊町が63.4%、鱒ヶ沢町が65.6%まで減少する見込みとなっています。（図1、表2）



資料：総務省「国勢調査」、国立社会保障・人口問題研究所「市町村別将来推計人口(平成30年3月推計)」

表2 構成市町村別将来推計人口

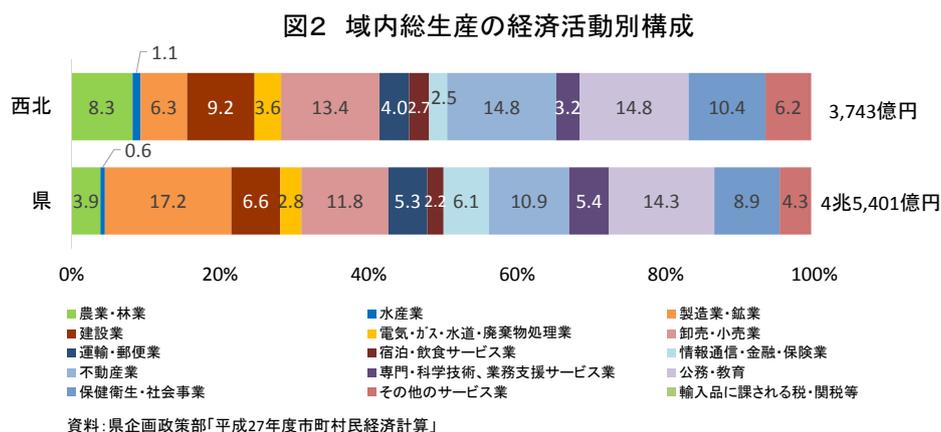
	2015年	2030年	2045年
五所川原市	55,181	43,527	31,867
つがる市	33,316	22,900	14,491
鱒ヶ沢町	10,126	6,647	3,959
深浦町	8,429	5,278	2,956
板柳町	13,935	9,917	6,428
鶴田町	13,392	10,665	7,940
中泊町	11,187	7,090	4,021
計	145,566	106,024	71,662

資料：国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口」(平成30年3月推計)

○域内総生産の経済活動別構成

域内総生産は3,743億円で、県全体の8.2%を占めています。内訳を見ると、「公務・教育」、「不動産業」のほか、「卸売・小売業」の割合が高くなっています。

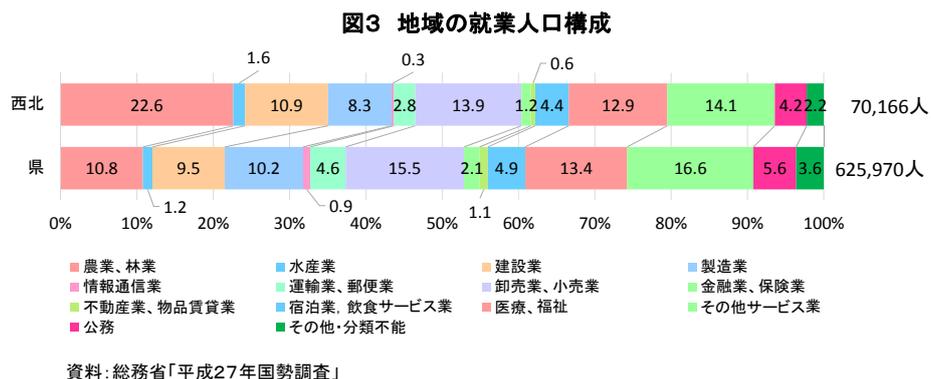
県全体と比べると、「農林水産業」、「建設業」、「卸売・小売業」の割合が高く、「製造業・鉱業」、「運輸・郵便業」、「情報通信・金融・保険業」の割合が低くなっています。(図2)



○就業人口構成

就業人口は7万166人で、県全体の11.2%となっています。内訳を見ると、「農業、林業」、「卸売業、小売業」の割合が高くなっています。

県全体と比べると、「農業、林業」や「建設業」の割合が高く、「製造業」や「卸売業、小売業」、「医療・福祉」の割合が低くなっています。(図3)



○農林水産業における西北の位置

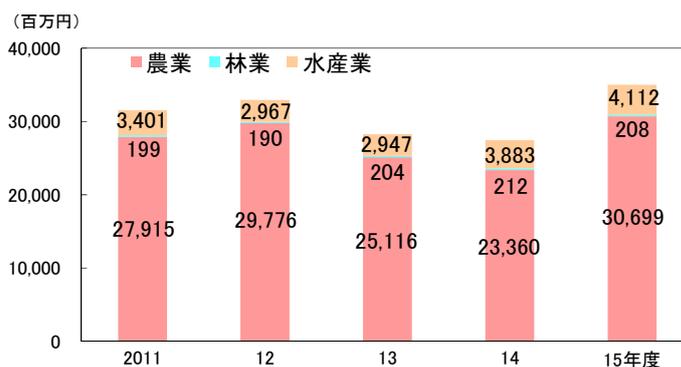
2010(平成22)年に比べると、10ヘクタール以上の農家が增加するなど大規模化が進んでいます。また、2013(平成25)年度から生産額が減少していましたが、2015(平成27)年度は米価の上昇により生産額が増加しています。(表3、図4)

表3 農業経営規模別経営体数

	1ha未満	1～5ha	5～10ha	10～15ha	15～20ha	30ha以上	計
平成27年(a)	2,089	4,808	914	420	100	66	8,397
平成22年(b)	3,083	6,116	1,006	399	71	51	10,726
増減率(%) (a)/(b)-1	▲ 32.24	▲ 21.39	▲ 9.15	5.26	40.85	29.41	▲ 21.71
増減数 (a)-(b)	▲ 994	▲ 1,308	▲ 92	21	29	15	▲ 2,329

資料:農林水産省「2010年世界農林業センサス」及び「2015年世界農林業センサス」

図4 西北地域の市町村内総生産(実額、農林水産業)の推移



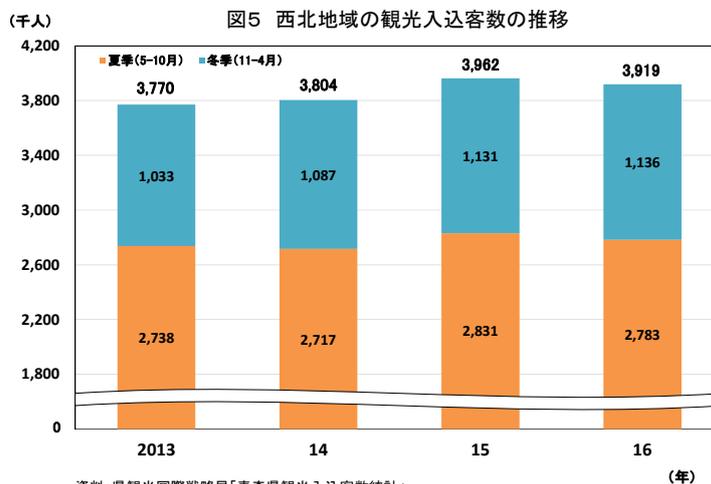
資料:県企画政策部「平成27年度市町村民経済計算」

○観光入込客数

2013(平成25)年以降、観光入込客数は順調に増加してきましたが、近年は横ばいとなっています。

観光入込客は夏季(5-10月)に集中し、冬季(11-4月)は夏季の4割程度となっており、季節間の変動が大きい状況が続いています。(図5)

図5 西北地域の観光入込客数の推移



資料:県観光国際戦略局「青森県観光入込客数統計」

○平均寿命

2015(平成27)年の平均寿命は2010(平成22)年に比べると延伸し、その伸び幅は多くの市町で全国の伸び幅と同等以上となっていますが、全国平均とは依然隔たりがあります。(図6、表4)

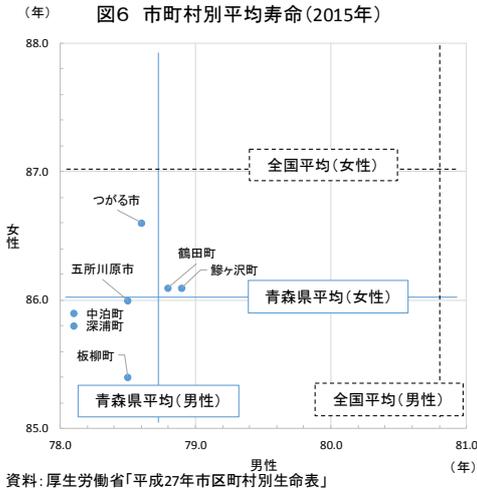


表4 全国・県・西北地域市町の平均寿命 (単位:年)

順位	全	男性			女性				
		2010年	2015年	伸び	2010年	2015年	伸び		
1	全	79.6	80.8	1.2	全	86.4	87.0	0.6	
2	青	77.3	78.7	1.4	青	85.4	86.0	0.6	
3	1	鱒ヶ沢町	77.0	78.9	1.9	深浦町	84.4	85.8	1.4
4	2	鶴田町	77.0	78.8	1.8	鱒ヶ沢町	85.1	86.1	1.0
5	3	五所川原市	77.3	78.5	1.2	五所川原市	85.4	86.0	0.6
6	4	中泊町	76.9	78.1	1.2	中泊町	85.3	85.9	0.6
7	5	板柳町	77.4	78.5	1.1	つがる市	86.3	86.6	0.3
8	6	つがる市	77.8	78.6	0.8	鶴田町	86.1	86.1	0.0
9	7	深浦町	77.5	78.1	0.6	板柳町	86.0	85.4	-0.6

資料: 厚生労働省「平成22年及び平成27年市区町村別生命表」

〇健診実施率・がん検診率

2016(平成28)年度の特定健康診査実施率、乳がん検診率は、着実に増加していますが、「健康あおもり21(第2次)」で設定した目標値には依然隔たりがあります。(表5、表6)

表5 特定健康診査実施率 (板柳町を除く)

項目	西北		県		2012年度 目標※1	2022年度 目標※2
	2011年度	2016年度	2011年度	2016年度		
実施率(%)	28.3	36.0	29.0	36.3	68.0	70以上

資料: 西北青森県国民健康保険団体連合会特定健診データ

※1健康福祉部「健康あおもり21」目標値

※2健康福祉部「健康あおもり21(第2次)」目標値

表6 がん検診受診率 (板柳町を除く)

項目	西北		県		2012年度 目標※1	2022年度 目標※2
	2011年度	2015年度	2011年度	2015年度		
胃がん(%)	31.1	21.2	21.7	17.3	50	50以上
大腸がん(%)	36.5	27.1	28.6	23.9		
肺がん(%)	37.8	25.8	22.4	18.7		
子宮がん(%)	30.9	29.5	29.4	29.8		
乳がん(%)	16.7	19.2	17.9	22.1		

資料: 厚生労働省「平成27年度地域保健・健康増進事業報告」

平成27年度から健診対象者の定義を全住民としたことから平成26年度までの受診率に違いが出て比較が困難になった。

※1健康福祉部「健康あおもり21」目標値

※2健康福祉部「健康あおもり21(第2次)」目標値

〇生活習慣

生活習慣のほとんどの項目が2010(2011)年度を下回っており、また、「健康あおもり21(第2次)」で設定した目標値には依然隔たりがあります。(表7)

表7 生活習慣に関する状況 (板柳町を除く)

項目		西北			県		2012年度 目標※4	2022年度 目標※5
		2010 (2011) 年度	2016年度	n: 西北地域の 調査数	2010年度	2016年度		
食塩摂取量(g/日)※1	男性	13	12	n=16	10.5	10.5	10未満	8.0
	女性	10	11	n=26				
野菜摂取量(g/日)※1	男性	306	286	n=20	265	300.2	350以上	350.0
	女性	273	264	n=29				
歩行数(歩/日)※1	男性	5,781	4,728	n=6	6,884	7,418	8,000以上	8,500以上
	女性	4,400	4,429	n=7				
肥満者の割合(%)※2	男性	34	35	n=5,509	37.4	33.9	25以下	34
	女性	27	27	n=7,199				
喫煙率(%)※3	男性	30	30	n=5,509	36.1	26.5	25以下	23以下
	女性	6	6	n=7,201				

資料

※1県健康福祉部「平成22年度・平成28年度県民健康・栄養調査」

※2西北は、青森県国民健康保険団体連合会「2011年度・2016年度特定健診データ」、県は、「2010年度・2016年度県民健康・栄養調査」

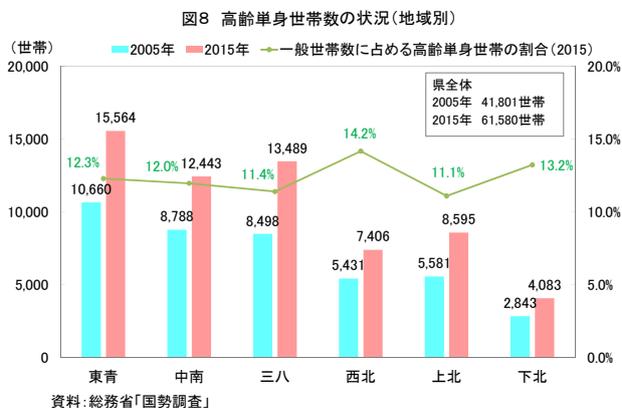
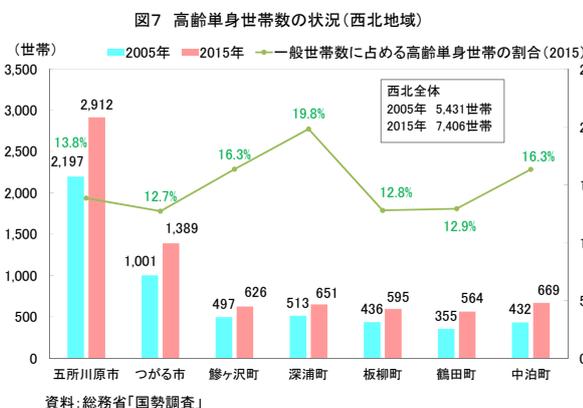
※3西北は、五所川原保健所「2011年度・2016年度市区町村国保特定健診問診票集計」、県は「2010年度・2016年度県民健康・栄養調査」

※4健康福祉部「健康あおもり21」目標値

※5健康福祉部「健康あおもり21(第2次)」目標値

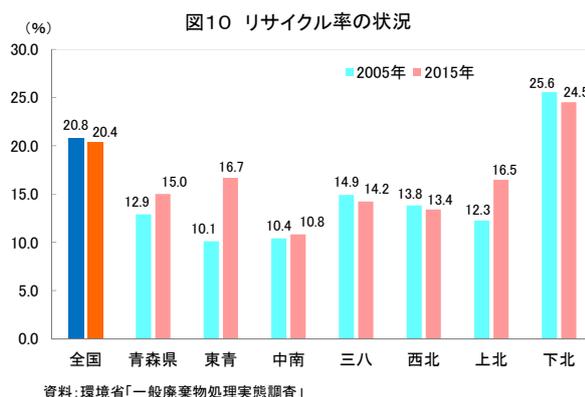
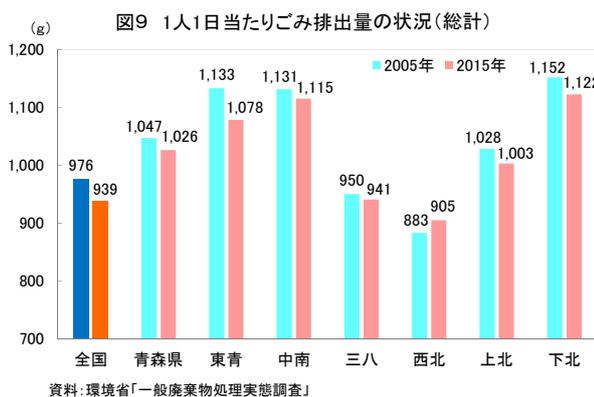
○高齢単身世帯の増加

一般世帯数に占める高齢単身世帯数は、各市町において増加しており、県内における高齢単身世帯数の割合も西北地域が最も高くなっています。(図7、図8)



○ごみ処理の状況

ごみ総排出量は、全国や県内他地域に比べて少ない状況にあります。リサイクル率は全国平均とは依然隔たりがあります。(図9、図10)



3 今後5年間の取組の基本方針と主な取組

(1) ブランドカアップで稼ぐ農林水産業の推進

消費者ニーズに対応し、かつ地域の特性を生かした安全・安心で付加価値の高い農林水産物の生産による地域ブランド力の強化と地元の資源や人財を活用した地域の6次産業化を推進します。

また、人口減少社会の中で農林水産業を地域の基幹産業として一層発展させるため、担い手の確保・育成と省力・低コスト生産に取り組むとともに、一次産業の基盤となるきれいな農地、水、環境の保全と再生を図ります。

【主な取組】

- ①マーケットインによる製品づくりや販売ネットワーク化の推進と地域ブランド化に向けた情報発信の強化
- ②地元の生産者、加工・販売業者の連携促進による地域の6次産業化の推進
- ③地域の生産者や団体、行政機関と教育機関等が連携した担い手確保と技術・経営力の向上や優良経営体の情報発信
- ④ICTやロボット化技術を活用した省力・低コスト技術の導入による労働生産性の向上
- ⑤豊かな森林の整備、環境に配慮した農業生産や藻場の整備などによる豊穡な海づくりの推進

(2) チャンスを生かし、地域が一体となった観光の推進

太宰治生誕110年（2019年）、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催（2020年）、東北新幹線新青森駅開業10年（2020年）、北海道新幹線奥津軽いまべつ駅開業5年（2021年）、そして「北海道・北東北と縄文遺跡群」の世界文化遺産登録に向けた取組など、国内外からの誘客につながる機会が次々に控えています。

これらのチャンスを生かし、地域が一体となって観光コンテンツの開発と磨き上げやリピーター獲得に向けた受入態勢の強化に継続して取り組むとともに、誘客の促進や情報発信の推進に向けた人財育成・連携方策などの充実を図ります。

【主な取組】

- ①誘客の強化のための地域資源の発掘・磨き上げ・観光コンテンツ化、既存コンテンツの見直しの推進
- ②テーマ性を有する観光コンテンツの開発推進
- ③観光コンテンツを活用した新幹線駅等の玄関口からの観光ルートの形成
- ④観光客がまた訪れたくなるような受入態勢の整備や観光客の期待に応える仕組みづくり
- ⑤相手に響く地域の情報の発信などを担う人財の育成と人財同士の連携の促進
- ⑥地域が一体となった観光情報発信の促進

(3) 地域が一体となった健やかな地域づくり

ヘルスリテラシー（健やか力）の向上や定期的な検診等に、働く現場を含む地域ぐるみで取り組みます。

また、バランスの良い食生活の定着や生活習慣の改善、こころと体の健康づく

りに関する地域ぐるみの相談支援体制の充実に取り組みます。

初期医療や健康相談を担うかかりつけ医の普及、二次医療機関の役割周知など地域の医療を支える体制の強化と、医療と介護の連携強化に取り組みます。

【主な取組】

- ①特定健診・特定保健指導やがん検診の意義の浸透と受診意識の醸成、健診後のきめ細かな個別支援体制の充実
- ②子どもの頃からの栄養・食生活に関する正しい知識の習得、日常生活における運動習慣定着化の推進
- ③禁煙支援や受動喫煙防止対策の推進
- ④こころの健康に関する相談窓口の周知や各相談窓口担当者間の連携強化、ゲートキーパー^{*}等の人財育成
- ⑤医療機関ごとの役割分担の周知や医療機関とケアマネージャー等との連携の強化

*ゲートキーパー：自殺の危険を示すサインに気づき、適切な対応（悩んでいる人に気づき、声をかけ、話を聞いて、必要な支援につなげ、見守る）を図ることができる人のことです。

（４）ふるさとを愛し、共に生き、暮らすことができる地域づくり

若者の地域への定着に向け、農林水産業や観光産業の推進による働く場の創出に取り組むほか、地域を愛し、誇りに思う心を醸成する取組を促進します。

出会いの場の創出、結婚・妊娠・出産・子育てに至る切れ目のない支援を推進します。

地域で支え合いながら、安心して暮らすことができる社会づくりのための取組を促進します。

未利用資源としての空き家の活用などに向けた取組を促進するとともに、ごみ排出量の削減とリサイクルの推進等に取り組みます。

【主な取組】

- ①農林水産業や観光産業の推進による若者の働く場の創出、次世代の若者を育むための取組の促進と幅広い世代間交流の場づくり
- ②市町村などと連携した出会いにつながるサポート体制の充実、結婚から子育ての総合的な取組の推進
- ③「青森型地域共生社会」の実現に向けた、高齢者等に対する見守り・買い物・移動・除雪などの生活支援や高齢者の居場所・交流の場づくりの推進
- ④市町村などと連携した適正な空き家活用・管理・処分方策の促進
- ⑤市町村などと連携したごみの減量と分別に対する地域住民の意識改革の促進、協力体制の構築